

【行動とその意味するもの～排泄～】

この実践論のシリーズでは、行動理解や支援の方法の基盤を常に社会モデルの考え方に置いています。それは、障がい＝躓きが、私とあなたの関係の中にあるという考え方（関係論と言います）ですが、それをコミュニケーションという視点で考えれば、「伝わらない」「わからない」という事態が生じた時に、「あなたがちゃんと伝えることができないから私がわからないじゃないか」と考えるのではなく、「あなたの伝える能力にも課題があるのかもしれないけれど、あなたの伝えようとしていることが、わからない私にも至らない点があるよね」という考え方です。

例えば、玄関で尿失禁、放尿という行為があったとき、「お便所に行って排尿できない」→「行かなくてはいけないとわかっているのに怠けている」あるいは「行かなくてはいけないということがわからない」→「練習、訓練が足りない」→「お便所に行くことを言い聞かせる」「頻繁に定時排泄をする」と考えるのではなく、「玄関でオシッコをしたのにはきっと理由があるのに違いない」→「私にはその理由がすぐにはわからない」→「その行動が生じた周辺で何かが起こっているのに違いないから調べてみよう」と考えていく道筋が社会モデルというわけです。

A男さんは、本当によく玄関での尿失禁がありました。その時は、Aさんの叔父さんへの日帰り帰省と祖母・父の墓参りというセットのお楽しみ日程が、決まっては、叔父さんの都合で延期になるということが繰り返されている時でした。その間に数ヶ月の時間が流れていました。そこで叔父さんの日帰り帰省の日程を外して、祖母・父の墓参りを実施したところ、玄関での尿失禁はピタリと無くなりました。

B子さんは、その頃、たびたびC子さんの部屋へ行っては、プーさんの毛布やプーさんの枕の上にわざわざ排尿をしました。これは簡単ですね。Bさんは、Cさんと同じようにプーさんの毛布やプーさんの枕が欲しかったのです。さっそく

購入され、プーさん関係の排尿は無くなっていきました。

D男さんの尿失禁も玄関でした。尿失禁の時間帯のデータをとると、その時間は他のクラスのドライブの時間帯と重なりました。ドライブに動き出す他のクラスの車を見て、彼は尿失禁をしていたのでした。これも簡単ですよ。「僕もドライブに行きたい」ですよ。彼のニーズを受け止めた短時間のドライブが、週二回ほど構造化された後、彼のドライブ関係の玄関での尿失禁は無くなったのです。

さて、E子さんがポツンポツンと夜尿をします。記録を確認すると、どうも短大生の施設実習が入り始めた時期と重なるようです。夜尿は、赤ちゃん返りと言われるような時期に多発することから愛着の対象からの分離不安が原因の一つであると考えられるのですが、E子さんの頭の中はどうも次のような連想がぐるぐる回っていたようです。

「施設実習」→「就職前研修」→「退職職員」「担当職員変更」→「さびしい」「つらい」「悲しい」、そこで夜尿。E子さんには、担当職員から退職しないことを伝え、さらに安心のために4月の外出の内容の相談を行い掲示したところ、夜尿は止まったのでした。

F男さん、時々パンツの中にチョロっと排便があります。プーンと匂うので、「パンツ変えようか」となるのですが、長期間全くない時と断続的に続く時とがあります。先日のウンコパンツは、帰省前に続いたので、家庭関係での情報収集を行いました。すると父親が勤務先の関係で、今までの土曜日の休日が出勤となり、帰省時には不在であることが確認できたのでした。F男さんには、父親の勤務先の変更をしっかりと説明し、今後の帰省予定を相談すると父親の休日に帰省したいとのこと、これでF男さんの帰省関係のウンコパンツは止まったのでした。

「伝わらない状況」が決して彼らだけの課題ではないことが確認できましたでしょうか？「至らない私」に大きな課題があるのです。